

埼玉県山岳連盟 埼玉岳連報 42 号

発行者 森下健七郎

発行所 連盟事務所 天野賢一方

〒333-0823 川口市石神 179-40

編集人 岩井田正昭

発行数 1600 部

埼玉岳連



平成 24 年度 課題を抱え評議員総会開催される

今年度の具体的な課題・目標

埼玉県山岳連盟会長：森下 健七郎

今年度の当面する課題・目標を项目的に挙げ、その解決を目指したいと思います。

1 つ目は、「組織強化」の取り組み課題・目標です。

(1)事務局業務の軽減化とHPの運用の拡充

(2)メールでの通知・連絡体制の確立

(3)新「会員証」発行（簡便化）：「負担金」改定に伴って

(4)「参与」制度の改定：岳連事業への理解・応援・協力態勢の確立

2 つ目は、「組織拡大」の取り組み課題・目標です。

(5)「協賛会員」制度を新設・実施

(6)「個人会員制度」を新設・実施

(7)一般登山者に向けた事業の企画・推進：公益的で収益性のあるモノへ

以上の実現に向けて「この1年、執行部・理事・会員の皆様と共に頑張りたい」と思っています。

そして、組織と会員個人にとって共に実りのある1年になる事を祈っています。

ご協力の程、どうぞ、よろしくお願い致します。

平成 24 年度埼玉県山岳連盟評議員総会

期 日：平成 24 年 4 月 15 日（日）

会 場：北本中央公民館 第 3 会議室

【第 1 回理事会】及び【評議員総会】

0 11 時より会計監査を実施。

監 事：佐藤 求、内野安登

会計担当：加藤富之

選手強化担当：宇津木秀二

1 13 時より会場準備、総会資料の綴じ込み

2 13 時 30 分～14 時 00 分 【第 1 回理事会】

第 1 回理事会・議事【協議事項】

1 理事の確認（名簿の訂正）所属委員会について

2 総会について

①役員の改選

②規約の改正について

ア 負担金の改正→各種意見が出る。

総会にて決着する。

イ 個人会員について

ウ 協賛会員について

エ 参与について

3 田中名誉会長賞について→2 件の候補を

田中名誉会長に推薦、2 件が受賞となる。

4 天覧山について 交渉中。なかなか難しい。

5 加須カップとコバトンカップの日山協名義後援の推薦について→承認。

※名簿については、事務局の F A X 故障に就き送っても受け取られなかったものあり。後日、総会の仮報告と一緒に訂正をする。

14 時 30 分～17 時 30 分

平成 24 年度評議員総会・議事録

(1) 開会の言葉：石倉副会長（大宮 A C）

「行楽日和の日曜日、お集まりいただきありがとうございます。中央の日山協も公益法人化を目指して改革を勧めております。埼玉岳連でも負担金について等の重要な話し合いがあります。活発なご審議を宜しく願います。」

(2) 会長挨拶：森下会長（高体連）

「お忙しい中、評議員総会にお集まり頂き有難うございました。石倉副会長の挨拶にあったように日山協は来年 25 年度に公益法人化となります、その影響も受けて埼玉岳連も運営のために種々手直しを必要としている時期にきております。本日は慎重審議を頂いて、これからの埼玉岳連の発展のために、宜しくお願いいたします。」

(3) 議 事

①議長選出：今回は、事務局長の推薦（※注 1）

で、小鹿野山岳会：柳原政一会長をお願いします。拍手で承認。

議事録署名人は、川越山の会・五十雀の岩井田正昭評議員にお願いします。

②総会成立宣言 出席 22 名、代理人 6 名、委任 8 名 計 36 名の出席で定足数の 1/2 以上となり、成立を宣言します ⇒加藤事務局長。

議 長： 柳原政一氏（小鹿野山岳会会長）

第 1 号議案

平成 23 年度事業報告。総務以下各委員会の委員長が説明。承認。 ⇒第 1 号議案承認可決

第 2 号議案

平成 23 年度会計報告。一般会計と強化関係の 2 つの報告をし、監査報告の後、承認。

※今年度はなんとか赤字にならないで済んだが、来年度の財政は厳しい。 ⇒第 2 号議案承認可決

第 3 号議案

平成 24—25 年度役員について

・森下会長自身から退任発表があったが、もう一期続投の意見が多く、続投が承認される。

・柳原副会長の退任。新副会長に、加須 S C C 会長：古峰孝氏を森下会長が推薦し、承認。

・内野安登監査の退任。新監査に、U D ・ A ・ C 代表：岩武成秋氏が推薦され承認⇒第 3 号議案承認可決

第 4 号議案

規約の改正について 4 つの提案が事務局長より説明され、それぞれで審議。

(1) 負担金の改正について

・財政検討委員会で検討の結果、理事会でも報告の通り、負担金の値上げの提案。

・「第 27 条 連盟の経費は、次による

(1)負担金 地区岳連内所属団体数×12,000 円＋300 円×会員数。又は、各山岳会 12,000 円＋300 円×会員数」

・今後の見通しや会員証等絡みでの質問や意見が多数出されたが、現行のままでは「赤字となる」ことから多数決で採決する。「出席 28 名中、賛成 15、反対 3、保留 1 他」。半数以上の賛成で可決される。

・会員証については、自動的に会員数分発行する。（発行は簡略・簡素化する）

(2) 個人会員について

・規約第 5 条に「…及び個人会員で組織する。」の項目と規約第 27 条に「負担金イ、個人会員は 5,000 円」の項目を追加。承認。

※実際の運営については細則を設けるが「値段に見合ったサービス」との意見あり。

(3) 協賛会員について

・規約第 27 条に「（3）協賛金 協賛金は、一口 5,000 円とする。」の項目を追加。承認。

(4) 参与について

・これまでの参与の条件「連盟の役員経験者からを

省き、第 21 条「参与は、会長が理事会に諮り、委嘱することができる。」とする。承認。

- ・これは、参与の窓口を広げ、多数の方に参与になっていただき、岳連を多方面から応援してもらう。将来的には、参与規定（細則）を設け、会費等の補助もしていただく。⇒第 4 号議案承認可決

◆議事の途中だが、一度議事を中断し、「第 6 回田中名誉会長賞」の授与が行われた。推薦理由を森下会長から発表があり、今年は「長年にわたり奥武蔵自然公園の清掃登山活動や県内山岳地域の環境保全に尽力」し、昨年「環境省自然環境局長賞」を受賞した「自然保護委員会」（授与者代表：岩崎繁夫氏）と『岳連報』発行 10 年：31 号を果たした「岩井田正昭：広報委員長」が受賞。田中名誉会長から金一封（各 5 万円）と賞状がそれぞれに贈られた。



田中賞受賞・記念写真、左から岩井田委員長、田中名誉会長、森下会長、岩崎委員長。

第 5 号議案

平成 24 年度事業計画。各委員長が説明。承認。
主な事業としては、第 3 回全国高校生クライミング選手権大会の開催 12/22-23 加須市民体育館、昨年、初めて高体連公認大会となり、第 2 回大会を開催。今年第 3 回大会となる。

他、競技委員会は、3 年後の関東ブロック大会を視野に入れ、審判員の養成が必要となる。また大会運営だけでなく、指導員の育成も考えたい。クライミング講習会を 4 回開催。

遭対委員会では、昨年より「レスキュー研究会」を開催。継続したい。

海外登山委員会では、会員の「エベレスト登山」を応援。
選手強化委員会では、国体出場の要、「関東ブロック突破」を目標に頑張ります。⇒第 5 号議案承認可決

第 6 号議案

24 年度予算案。加藤事務局長より説明。承認。
※昨年は特別会計からの繰り入れと会員証発行繰り越しで何とか赤字にならなくてすんだ。今年も特別会計から 10 万円を一般会計に繰り入れます。その他寄付等、皆様のご協力を見込んだ予算案としました。本日承認された負担金の増額を入れて、執行していきます。⇒第 6 号議案承認可決

予定された議案は終了。柳原議長の解任。退席

その他

- ①柳原政一：岳連副会長の退任の挨拶
- ②新副会長：古峰孝氏（加須 SCC 会長）の挨拶
- ③新監査：岩武成秋氏（UD・A・C 代表）の挨拶
並びに旧「日産ゼール山岳部」の会名変更→「UD・A・C」の紹介
- ④新委員長：鈴木百合子・海外登山委員会の挨拶
そして、最後に、福田靖副会長の閉会の言葉で、総会を終了した。

（※注 1）：評議員総会の議長選出方法について
（平成 23 年度より実施）→方法：ブロックに分けて
順番で委嘱していく。→加盟団体を番号順で

- I 1：川口市登山同好会 ～16：山と自然を楽しむ会
 - II 17：桶川山の会 ～31：新電元工業山岳部
 - III 32：所沢市役所山の会 ～47：加須クライミングクラブ・ビナ
 - IV 48：幸手山岳会 ～61：彩・岳悠会
- の 4 ブロックに分け、順に議長を選出。一昨年（22 年）は II ブロック（深谷山岳会）、昨年（23 年）は III ブロック（加須 CC・ビナ）、今年（24 年）は、IV ブロックの小鹿野山岳会：柳原政一会長にお願いした。以上

（文責）：加藤富之事務局長 深谷山岳会

（議事録署名人）：岩井田正昭 川越山の会・五十雀

◆評議員総会出席者 敬称略

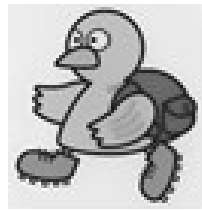
- | | |
|-------------------|--------|
| 1. UDAC | ：岩武 成秋 |
| 2. 浦和山岳会 | ：田中 文男 |
| 3. あゆむ山の会 | ：佐藤 求 |
| 4. 桜草山の会 | ：芝田 信子 |
| 5. 遠峰山岳会 | ：天野 賢一 |
| 6. 大宮アルパインクラブ | ：石倉 昭一 |
| 7. JR 大宮山の会 | ：吉田 秀夫 |
| 8. 深谷山岳会 | ：塚越 国雄 |
| 9. たらっぺ山の会 | ：福田 靖 |
| 10. 熊谷アルムハイキングクラブ | ：小高 英雄 |
| 11. 壁稜山岳会 | ：八ツ田政男 |
| 12. 熊谷山岳会 | ：長谷川 茂 |
| 13. エコー山の会 | ：太田 忠男 |
| 14. 蓮田山岳会 | ：熊谷 潔 |
| 15. 高体連登山専門部 | ：森下健七郎 |
| 16. ボルシチ | ：矢萩 実 |
| 17. 小鹿野山岳会 | ：柳原 政一 |
| 18. 無名山塾 | ：金澤 和則 |
| 19. 熊谷山旅会 | ：宮脇 卓士 |
| 20. TMGC | ：竹腰 昌信 |
| 21. 浦和溪稜山岳会 | ：風間 進 |
| 22. 防衛医科大学山岳同好会 | ：伊藤 正孝 |
| 23. 彩・岳悠会 | ：笠原 数浩 |
- （途中より 24. 加須スポーツクライミングクラブ：古峰 孝）

◆評議員代理出席者

- | | |
|-------------------|--------|
| 1. 浦和西岳友会 | ：渋谷 直克 |
| 2. アルパインクラブ・とだ | ：岩崎 繁夫 |
| 3. 加須クライミングクラブ・ビナ | ：足立 昌代 |
| 4. 大宮岳稜会 | ：谷口 英弘 |
| 5. 槻岳友会 | ：仙波 義雄 |
| 6. 川越山の会・五十雀 | ：岩井田正昭 |
- （途中まで 7. 加須スポーツクライミングクラブ：道浦 陽司）

◆評議員総会・議長委任

1. 川口市登山同好会
2. 我峰人・信越山の会
3. 恵流峰会
4. 東部登高会
5. 毛呂山山岳会
6. 埼玉医科大WV部
7. 獨協大学山岳会
8. 山学同人・比企



コバトン

平成 24～25 年度埼玉県山岳連盟役員

※氏名	新役員	平成 24 年 4 月末現在
役職名	氏名	所 属
会 長	森下健七郎	高体連登山専門部
副 会 長	石倉 昭一	大宮アルパ インクラブ
副 会 長	福田 靖	たらっぺ山の会
副 会 長	古峰 孝	加須スポートクライミングクラブ
監 事	佐藤 求	あゆむ山の会
監 事	岩武 成秋	UDAC
理 事 長	天野 賢一	遠峰山岳会
副理事長(兼任)	瀬藤 武	浦和溪稜山岳会
事務局長	加藤 富之	深谷山岳会
指導委員長	野村 善弥	あゆむ山の会
競技委員長	土屋 正昭	加須クライミングクラブ・ヒナ
選手強化委員長	宇津木秀二	高体連登山専門部
遭難対策委員長	瀬藤 武	浦和溪稜山岳会
自然保護委員長	岩崎 繁夫	アルパ インクラブ・とだ
海外登山委員長	鈴木百合子	無名山塾
ジュニア委員長	大石 智章	高体連登山専門部
広報委員長	岩井田正昭	川越山の会・五十雀
企画委員長	長谷川 茂	熊谷山岳会
事務局	塩谷 壽子	大宮山岳会

名誉顧問	浅見 豊	恵流峰会
名誉会長	田中 文男	浦和山岳会
参 与	井上 守司	
参 与	野井 篤	
参 与	北 千恵吉	小鹿野山岳会
参 与	井古田忠男	本庄山の会
参 与	北田 紘一	浦和西岳友会
参 与	新井 宏司	奥武蔵ワンダーフォーゲル
参 与	大野 好司	(高体連登山専門部)
参 与	武井 正男	深谷山岳会
参 与	中田 弘	浦和溪稜山岳会
参 与	平沼 伸一	小川山の会
参 与	牧野 要雄	浦和溪稜山岳会
参 与	大野 幾雄	アルパ インクラブ・とだ
参 与	柳下 明男	山岳同人埼玉
参 与	大久保 孟	桶川山の会

『県岳連・副会長に就任して』 古峰 孝

加須スポートクライミングクラブ代表

このたび、先の平成 24 年度評議員総会において、副会長という重責を仰せ付けられました。元々、浅学非才でいたらないところが多々あり、お引き受けする器ではないだけに身の引きしめる思いで一杯でございます。

敢えて県山岳連盟との関わりを申しあげれば、第 59 回国民体育大会山岳競技やワールドカップ等のクライミング会場地として、加須市山岳連盟の立場でお手伝いをさせていただいたことぐらいであります。

県山岳連盟は、初期の目的を達成するために、専門委員会をはじめ各般にわたり数多くの充実した事業が展開されており、敬意を表する次第であります。そうした中、副会長という職責を全うする自信はとてございませんが、微力ながら誠心誠意と取り組んでまいりますので、森下会長様をはじめ県山岳連盟の皆様には、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげ、新任のあいさつといたします。

大会リザルト速報

宇津木選手強化委員長

JFA ユース選手権 2012 “シレカップ” 3/24～25

会 場：千葉県印西市松山下公園・総合体育館

男子ユース B 5 位：波田 悠貴 春日部市立緑中

女子ユース A 2 位：坂井 絢音 川越市立砂中

男子ユース A 優勝：是永敬一郎 京北高等学校

10 位：加藤 亮央 市立富士見中

男子ジュニア 5 位：古畑 和音 越谷東高校

=====

第 4 回 ジャパンユース

“MOUNTAIN EQUIPMENTCUP” 4/28

会 場：静岡県浜松市 スクエアクライミングセンター

男子ジュニア、ユース A 総合 2 位：是永敬一郎

総合 10 位：古畑 和音

女子、ユース A 総合 優勝：尾上 彩

男子、ユース 総合 6 位：波田 悠貴

遭難対策委員会・レスキュー研究会報告

テスター・レスキュー研究会：瀬藤武

3 月 25 日 am9:00～pm4:00

レスキュー研究会（レス研）による登攀用具(今回はロープ、スリング)の静荷重破断テストを久喜の某工場にて行った。

試験材料としてロープ 各種、スリング 各種を色々な視点から 5Ton クレーンにて静荷重により切断・破壊実験を行った。

① 径違いロープの結びの挙動

太さ違いのロープを結ぶと解け易いかどうか荷重を掛けて見たがロープ末端を長い(約 40cm) 為かロープ径の違いによる差は見られなかった。当然細いほうのロープが先に切断している。

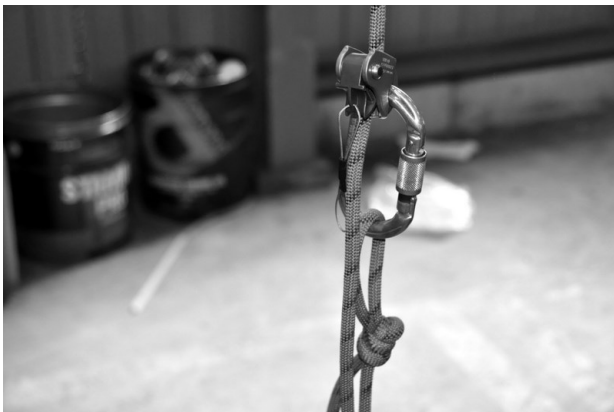


メインロープ Φ8.5 mm × サブロープ Φ5.0~7.0 mm

② ギヤを使った場合のロープの挙動

固定ロープにギヤをセットし登る場合やレスキュー等でロープを固定する場合のロープの挙動はどうか?

ロープマン、タイブロックで試したがいずれの場合もロープ被覆が破断しギヤが滑っていくようである。当然、強度はロープ被覆の強度となる。



荷重前 (ロープマンの引っ張り状況)



加重後 (ロープ被覆破損)

③ フリクションノットを使った場合のロープの挙動

プルバック、オートブロック等のフリクションノットを使った場合のロープの挙動は、80kg の重りを落下係数 1.0 と 2.0 を想定し落下させた。落下係数によるフリクションノットのすべりに差は有るが概ね 400kg で止まった。当然落下係数 2.0 の方が滑り量が多い。なお、今回は新品のロープと補助ロープを使用した為か、セット時に体重を掛けてフリクションを確認したが重りを落下させるとそのまま滑って試験にならない事例が多く見られた。フリクションノットを使用する場合は、メインロープとの相性を充分確認する必要があると思われる。

④ 確保器について

普段良く使うルペルキューブでセカンドの代わりに加重を掛けセカンド確保時のロープ強度をテストした。

80kg の静止加重では、メーカー通りの効果が得られたが、約 1.0t ほどの加重を掛けるとロープの上下がズレてセカンド側のロープが繰出される現象がみられた。

おそらく、重加重によりロープが伸びてロープ径が使用限界以上に細くなった事が原因と考えられる。レスキュー等でザイル固定を行う場合は、重加重を想定したバックアップが必要である。

今回の試験では、フリクションノットであれロープマン等のギヤを使う場合、使用状況に応じた使い方やメーカー仕様限界内での使用をしないと危険な状況を作り出してしまう事が解かった。今回の試験内容に関しては、別途 DVD を作成し希望者を募り状況検討と配布を考えております。 県岳連遭対委員長：瀬藤 武

参加者：浦和溪稜山岳会/風間 進・無名山塾/鈴木百合子、矢田 実・蓮田山岳会/熊谷 潔、板橋秀吉、岡野敏、遠峰山岳会/東家友也・川越山の会・五十雀/岩井田正昭

記(レス研・岩井田)

平成 24 年度自然保護委員会 総会報告

平成 24 年 3 月 31 日・埼玉県自然学習センター(北本)において平成 24 年度自然保護総会が開催。

前半は指導員講習会として埼玉県生態系保護協会・高野徹氏を講師にお迎えし「埼玉の生態系について」のテーマによる約 2 時間近くのレクチャーを受けた。

講習会終了後総会を開催、堀江自然保護副委員長の司会により議事を進行した。23 年度活動報告、決算報告、監査報告。24 年度活動計画案、予算案、規約改正及び役員改選について質疑を行いすべて承認可決された。

総会参加者は下記の通り(認定番号順/敬称略) 新井宏司、榎本昇、三ツ木達男、長谷川茂、森下健七郎、岩崎繁夫、柳原政一、柳下明男、仙波義雄、柳井勝伸、岩武成秋、計良寿彦、板橋秀吉、堀江千子、八ツ田政男、井原新一、石倉昭一、吉田秀夫、

柴崎英保、天野賢一、増田修、熊谷潔、岩崎修一、
朝香聖成：以上 24 名・ 研修会参加・中川一芳

記（自然委・岩井田）

平成 24 年度海外登山委員会 総会報告

H24 年 4 月 7 日：飯能市『川波』

出席者：天野賢一、今雪雅夫、内野安登、風間進、塩谷壽子、鈴木直樹、鈴木百合子、蛭川幸榮、藤井大輔、山本やよい。

平成 23 年度事業報告、決算報告及び 24 年度・役員改選、事業計画（海外登山計画、講演会計画等）等を行った。各議案はすべて承認可決された。

総会終了後、同所にて懇親会を開催、今年度の情報交換等を行った、現在大山会員がエベレストへ遠征中。

平成 24 年度・役員改選により鈴木（百）委員長兼日山協海外登山常任委員（無名山塾）、今雪副委員長（あゆむ山の会）、蛭川副委員長（深谷山岳会）がそれぞれ就任した、任期は 2 年（24 年～25 年）。
敬称略

記（海外委・岩井田）

平成 24 年 4 月 29 日 第 26 回二子山開山式



「安全登山」を祈念し玉串を捧げる森下会長

芽吹きの新緑がまぶしい快晴の中、小鹿野・二子山開山式が股峠にて開催された、小鹿野山岳会の柳原氏の司会により神事が挙行され、開山を祝うと同時に安全登山を祈願して地元、斉藤宮司により御祓いが執り行われた。山岳連盟から森下会長をはじめ多数の連盟会員が参加した。（例年よりカキの花、二輪草の開花が遅い感じ）

記（広報委・岩井田）



二子山中央稜コバトンルート・クライミング中

『冬期・谷川岳：滝沢第三スラブ登攀』

平成 24 年 3 月 11 日

深谷山岳会 加藤富之

遠峰山岳会 藤井大輔



※12p 目 核心部をリードする藤井（遠峰）

■「今年は 3 スラに行こう」と言ったのは、2 月 19 日の第 3 回 SCM(埼玉クライムズ・ミーティング)の前夜の飲み会。今冬前穂北尾根に一緒に行った遠峰の藤井君が行きたいと言う。彼は 3 年程前に石橋君(たらっぺ山の会)と一度取り付いたものの、滝沢下部の氷が大氷瀑と化し、難しいアイスクライミングになってしまい敗退した経験がある。自分は、「いつかは 3 スラ」と思いつつもなかなか取り付けず、月日だけは過ぎていき、周辺のアルパインアイスを登る日々。特に今冬は各地の氷の状況が良くて、2 月は毎週のようにアイスクライミングに出掛け、アッという間に 3 月となってしまった。「行者返しの滝」は逃したものの、2 月 26 日には荒船山鱸岩の「昇天の氷柱」に登れたので、次は「3 スラ」と思い始めた。

翌 3 月 4 日(日)は絶好の晴天で雪の状態も良かったようだが、第 9 回新日本ヒマヤン会議に出たので(谷口/長門の話は良かった)山には行かず一週空いてしまった。この日、「チーム 84」パーティが 3 スラを登ったようだ。

そして、3 月 11 日(日)を迎えた。下界では木・金・土と雨が降り、これでは「谷川は絶対降っている」と思い、9 割方諦めていた。よって、「偵察?!」気分です合へ向かう。今回は岡田が加藤宅に寄って、拾ってくれた。谷川 IC で降りると天気は良く、雪も無く道はドライ。「エー、降ってないの?」と驚く。これだから谷川はわからない。いつものセブンで買い物をし、夕飯・お酒・朝食・行動食をたんまり買う。そして、ロープウェイ駅の駐車場に入る。一足先に晩酌をしていると藤井君がやって来て(22:30 頃)、一緒にチョット飲んで日付が変わる前に、「2 時起床」と決めて寝る。

■3 月 11 日(日) 昨年、東日本大震災が発生した日。

今日は、何も起こりませんように! 2 時起床。まだ眠くボーとしている。シュラフから出て、朝食を食べる。テ

トをたたみパッキング。トイレに行ったりしたので「直ぐ出発」と言っていたのに、1 時間近く経ってしまった。

2:50 出発。外は曇っているが乾いており、好天の兆し。センターに寄って計画書を提出。センターの裏の方から取り付き、マカ沢を経由して一ノ倉沢へ。前方に先行パーティのライトが見える。一パーティは避難小屋の前で休憩中。こちらはもう少し先まで行って休憩し、ハーネスを着ける。さらに先行パーティの灯りが見えたが、左の一ノ倉沢方面へ行ったようだ。よって一ノ倉沢から先は、ラッセルとなる。藤井君は先週偵察でここまで来たと言うが、その時はデブリがなかったようだが、今回はデブリだらけ。今週に入って、すっかり変況したようだ。ということは、上の雪や雪庇も少なそう!?. 出来るだけ登りやすい処を交互にラッセルし、とうとう取り付きに到着。下から登ってきたパーティは降りてしまった。ここまでのラッセルがちょっと深かったので諦めたのだろうか?自分もこのラッセルした雪が少し気になるが、滝沢下部はすっかり雪に埋まり、シュルトを越せば直ぐスラブに取り付ける。空は高曇りで、日陰のまま。この先真冬並の寒が入って来ると言うが、下界は晴れかけてきた。

バケツを掘って、ガチャ類を出し、アゼンを着け、ヘッドランプを外し登攀の準備。ロープは藤井君の持ってきた 8.5mm の 60m ロープ。末端をこちらに向けるので「俺に登れって言うこと?」と問いかけ、そのままロープを結ぶ。「本当に行くの?」と岡田氏、「天気は最高!」と藤井氏。そして藤井君にバレイしてもらい 6:20 登り始める。



滝沢第三スラブ全景・ルート

1P:60m:加藤 「エイッ!!」とシュルトを越えて取り付くが、スラブに薄くのった雪。いきなりバイルで岩を叩く。

これなら左上でなくて正面の氷の方が良かったか? と思うも、氷も薄く直ぐ露岩となるので、そのまま左上気味にできるだけ雪や氷の厚そうな処に登る。露岩の横に行けば良いところがあるのでは?と思うも全くなく、60m 一杯登ったところで、やや堅い雪面にバイルのピックを打ち込み、アンカーとし後続をバレイする。バイルなら大丈夫だ。

岡田がタイブロックで登ってきて、途中から藤井君が登ってくる。しかし、岡田の第一声は「降りることに決めた。」と言う。どうやら調子が悪いようで、「このままではみんなに迷惑をかけてしまうので…、降りるには今しかない。」と言う。意志は強く、藤井君が登ってきたところで事情を話し、岡田は降りることになる。懸垂は支点がちょっときついで、ロープをタイトに張ってクライムダウンしてもらう。降りきったところでロープを解除し引き上げる。この先は、藤井と加藤の 2 人。基本的につるべ(スタック)で登る。前方に段々のあるスラブが続くが、何処が F2 だか F4 だかわからない。そもそもどちら方向に進むの?という感じ。素直に上を目指す。久しぶりの 60m ロープで長い?と思うも、目の前のちょっと急な氷壁の手前までしか行けなかったりして、距離が掴めない。

2P:60m+α:藤井 そのまま雪壁をロープ一杯登る。やや急な雪壁(F1 か?)を越えようとするもロープがギリギリ。バレイ点を 3m 程移動して事なきを得る。上はアイスクルー 1 本とバイル。

3P:60m:加藤 F2 辺りを通過しているのか?雪壁と氷壁をロープ一杯登る。

4P:60m:藤井 そのまま雪壁と氷壁をロープ一杯登る。



4p 目のリード・藤井 上が F4 手前右の岩まで

5P:60m:加藤 やや急な氷壁を左に巻いてスクルーでアンカーを取り、右上気味に登る。F4 だったようだ。やや堅そうな氷にスクルーをきめ、バイルでバレイポイント。

6P:60m:藤井 左上気味に雪壁をロープ一杯登る。

7P:60m:加藤 雪壁と氷壁を直上。F5 辺りを通過か?ロープ一杯でバレイ。

8P:60m:藤井 雪壁と氷壁を直上。F6 辺りを通過か?ロープ一杯でバレイ。

プ一杯でビレイ。

9P:60m:加藤 左壁沿いに登る。何処か壁で支点が取れないか?と探しながら行くがどこも取れない。雪壁をロープ一杯登ってビレイ。上部草付き帯やドームなどが見えるが、ガスがかかってしまう。この先トラバースして右のリッジに出る場所を目で追うが、どこも良くなさそう。

10P:60m:藤井 左壁沿いの雪壁を登る。途中でトラバースしても良いのではないか?と思ったが、雪壁がまだ続く。そのまま左壁沿いに雪壁をロープ一杯登る。



10p 目のリード・藤井

11P:60m:加藤 右手のリッジに向かってトラバース。途中雪崩れた跡があり、雪面が堅かったりする。ロープ一杯でも対岸に届かず、堅そうな雪壁にバールを打ち込んでビレイ。

12P:60m:藤井 核心のピッチ。右手のリッジ沿いは、草付と言っても露岩が直ぐ現れそうで取り付く気がしないようだ。正面に向かうも途中右のリッジに出ようかと試みるが不安定なので諦める。結局、正面のルンゼ出口の薄い氷壁を右壁沿いに進む。このピッチが今日一番のアイスクライミングとなる。意外にスクレーが良く決まるが、バランシで難しい。出口は岩に雪が載って不安定。右には行けず直上して露岩の右を辿るとブッシュがありビレイ。一安心。

13P:60m:加藤 左の雪壁の凹角を直上し、ややリッジ状をロープ一杯登る。途中、前方右の露岩沿いに出ようかと思ったが、素直に直上する。バールを打ち込んでビレイ。目の前にドーム岩壁が黒く見える。しかし遠く感じる。

14P:60m:藤井 そのまま雪壁をロープ一杯登って、60mでドーム基部に辿り着く。良かった。2本の残置ハーケンがあった。

15P:30m:加藤 ドーム基部のトラバース。右手は急傾斜で切れ落ちているが、壁にはところどころピンが打ってあって助かる。バール2本を壁との間の雪面に突き刺し、ステップを切って横這い。あのプレートは何処にあるのか?と思っていると壁の末端まで来てしまい、壁沿いに登ると、巨大なプレートがあった。このあたりに下降支

点が有るはずだが見えない。雪に埋もれているのか?少し岩をなでると、シュリンゲが出てきた。アックスで丁寧に氷を落としぶレイ。藤井君を呼ぶ。懸垂下降:25m 加藤・藤井

藤井君が来たところでロープを外して下降の準備。藤井君がロープを巻いている間に、下降方面を覗きながら雪面をさらに削る。ガスで下が見えず奈落の底のよう。この場所は一部ハングしているので、余計悪く感じる。ロープを投げた後、「届いているんだろうな?」と願いながら下降。スラブの途中だが、雪が悪いのはやや上だったので、25m位のところにバケツをほり、ロープを離す。初め、左手の岩の方に行ってみたが、その後が悪そうなので、やや右手(Aルンゼ側)の雪の状態の良い方へ行った。

藤井君が降りてきてロープの回収。それから谷底まではちょっと悪そうに見えたのでロープを付けてトラバース。加藤がトップで行き、Aルンゼの右壁近くまで行く。積雪が多く深いラッセル。先のプレートの遭難は、Aルンゼで雪崩に流されているので慎重に。

2人がトラバースしたところでロープをしまい、雪の降る中、Aルンゼを登る。右壁沿いに登るが、数か所シュルトがあったり、上部からの判雪崩が頻繁に襲ってきた。途中から右手のルンゼに入るが出口の壁は判雪崩の巣。突破は無理なので、その右手の細いルンゼにルートを探る。まだ判雪崩は来ていない。入り口がギャップになっているが慎重に突破。先に行く藤井君の崩した雪が落ちてくるが大丈夫。いいルートだ。最後、シュルトを越えて数メートル登ると稜線に飛び出した。

ヤッター!! まだリッジ沿いの登行があるかと思ったらいきなり国境稜線だった。2人で堅い握手。16:07。

念願の「3スラ」完登。しかし、稜線は雪と風の強い吹雪。登攀はまだ終わっていない。でも何とかなるだろう?と思ったが、そうは簡単ではなかった。

結局この後、西黒尾根を目指して降りたのだが迷い、天神尾根に出てしまう。そして夜のスキー場を歩いてロープウェイ駐車場に着いたのは23時30分だった。21時間行動。下で根気強く待っていてくれた岡田と再会し、無事を喜び合う。

しばらくゆっくり身繕いをして、藤井君と別れる。

■パーティ: 岡田(途中下降)・加藤・藤井

■コースタイム

駐車場 2:50—センターマカ沢出合 3:25—ノ倉沢 3:48/4:00—取付 6:00/6:20—Y字河原 6:40(岡田下降)/7:00—F4上付近 9:10—草付帯・取付 10:55/11:00—ドーム基部(左) 13:20—下降点 13:50/14:05—Aルンゼ・下 14:30—トラバースして 15:00—国境稜線 16:07—谷川岳杵の耳 16:35/16:40—西黒尾根下降点—戻ってトラバース—赤布—位置不明(熊穴沢避難小屋付近)—天神平スキー場 21:50/22:35—駐車場 23:30 (加藤:記)

投 稿

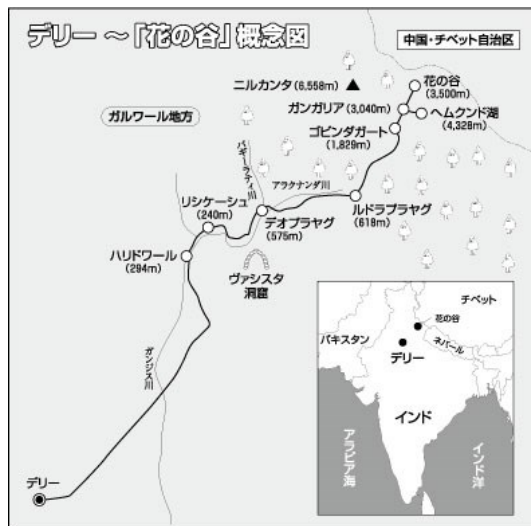
【北インド・ヒマラヤ登山隊 報告】その2

奥武蔵学友会 新井宏司

北インド・世界遺産に登録されている花の谷と
シース教の聖地ヘムクンドを訪ねて

期 間：平成 23 年 7 月 2 日～14 日：13 日間

隊員構成： 登山隊団長：新井 宏司
 登山隊長：初野 正一
 登山副隊長カト：宮澤 喬男
 登山副隊長：佐藤 まさ子
 医療（看護師）：安間 和枝
 総務担当：森田 美子
 記録担当：初野 君子
 食糧担当：園田 たつの
 インド人ガイド：2 名



 ※7/2 から 7/6 までは『岳連報 41 号』を参照ください

7/7・ヘムクンド・聖地へのトレッキング 曇り時々小雨

今日はシース教の聖地ヘムクンドへ行く標高4,000m以上の高地なので少し心配であった、7時15分朝食は(ナ・スープ 相変わらず)を済ませてホテルを出発。初日もお世話になった馬に乗って頂上を目指す、だいぶ慣れてきて気分よく景色を見る余裕さもある。異国の風景は北インド・ヒマラヤへ今登っていることを実感する(初野夫妻・森田)二人は優先的に宮沢宅から持参したザブトを使用させてもらう快適。登山道では花畑の出迎え(ヒマラヤ山脈に咲く幻のブルーポピー・桜草・勿忘草・等など)咲いていて気分も最高、9時10分ごろ此处で馬はお役御免、ここから先には雪があるので無理。標高は3,800mすでに富士山より高いここからが正念場である標高差は何と600m、宮沢さんのアドバイスでゆっくりで、いいとの注意を聞きながら少しずつ高度を上げる、それでも息苦しく一步一步が遅くなり休憩の

時も深呼吸をゆっくりする様にと又も宮沢氏からのアドバイスがあり、まだ頑張らないと思いながら足を運ぶ、しばらくすると、頂上だよとの声にやった…でも最後の所でカトにザックを預けた有難うございました、こんなに感激した登山も数は少ない10時55分標高4,320mヘムクンドへ今回遠征の最高到達地点には立派なお寺があり大きな鐘があった。園田さんが一回突いたが私にはとどかなかつた、先に進むと冷たい湖の中に沢山の人々が沐浴をしている。カトが何本も水の中に垂れ下がりそのカトにつかまって身を沈める、若い人でも大変そう周囲の雪山から雪解けの水が入り非常に冷たい、この湖に手を入れようとしたら素足でないとダメとか?その後別の場所に移り宮沢氏にクッキー付の紅茶を入れてもらい寒さを凌ぎ、体を温めた、現地の人達と写真撮影をして11時00分山頂を後にした。12時30分休憩、大雪渓を渡り暫らくして登るときに、お役御免にした馬に再び全員で厄介になる。やはり疲れているので馬の有難さを肌で感じた。

全員馬小屋の前で下馬する。「ガンジス河の源流と世界遺産の花の谷」改めて大感激。昼食は近くの食堂にて(ヤバ・サラダ・チャイ)をすませてから夕食の材料の買い出し、各店を覗きながらカトが品物をチェックして無事買い物も終わった。19時20分～20時30分夕食は(ナスの味噌炒め・トマトの野菜炒め)森田・宮沢両コックにお願いしての楽しい一時を過ごした、明日は最後の下山日を迎える、部屋に帰パッキングをしてお休み下さい。

担当 初野夫妻

7/8・ガイヤ・ゴビンガナート・キルティナート 曇の晴

今はガンガリヤのホテル(山小屋)を後に下出する日、昨夜の雨が気になる、ペーに集合し、5時に出発する調子良く歩かないとその後が大変なことになるゴビンガナートからキルティナートまで車で一日かかるのである。頑張ろう。休憩6時30分朝食にはアル・パウじゃがいもが入ったお焼き様な物である、私には結構いてるかも、一時間に一回の休憩を取り快調に進んだ下出途中では現地の若者に良く声をかけられそのつど写真撮影のモデルに。何回もだと本当に疲れるな。でも陽気で楽しそうな人達。バスの待っているゴビンガナートへ着いたが、荷物を運ぶ馬が来ない。12時20分ごろになってカトと荷物が届く我々より一時間おくれである、聞くところによると馬より人手の賃金が安いので遅くなったと聞いた。ゴビンガナートで私達を悩ませたのが大量のハエであつた、そのうえ大変な事が起こった、崖崩れで車がいつ動くか分からないとの事、待つより仕方がない車の外で話をしたりバスの中で居眠りをしたりして時間をついやした。ガンジス河の源流なので開通しても下りが優先この谷は狭い峡谷になっている為盛車場に限界ある、私達は運が良かったのか下山日であった、16時20分やつとバスが動

き出す現場を走りながら景色を見ると恐ろしい左側
は崖淵でガードレールも無く深い谷の下方を見ると 1 台
の車が横倒しになっている何時の事だろう、大きな
岩が道を塞いでいたらしくグイグイで砕き人の手や
ブルドーザーでどかして通れるようにしたので無事に通
過する事が出来一安心したが、この 5 時間は大変な事
になったゴビガナートからキルネガールまで丸一日かかる
距離なので旅の行程にも影響するのである。ドライバ
ーに頼るしかないのでチップをだして了解してもらっ
た、薄暗い夜の山道をひたすら走る外を見ると木々が
飛び交い所々の街の灯りがとても美しい。ドライバー
の頑張りでバスが走り出してから約 7 時間以上におお
よんだ。有難う御座いました、23 時 30 分キルネガール
のハイムゲストマンダに到着遅い夕食(カレー・サラダ・チャーハン)
大変美味しかった、明日も出発が早いのでそのまま
寝る事にした。 担当 初野夫妻

7/9・キルネガール・ニューデリー 晴れ

4 時 15 分起床、紅茶(ブラック)を飲み 5 時 00 分出発 6
時 25 分デラフライで朝食を済ませて早々と出発する、
数時間バスの旅もいよいよデリー市内入り 9 時 50 分~10
時 30 分国営の宝石店に寄りお揃いのブレスレットを買う、
その後 10 時 50 分 11 時 30 分ハットワールの沐浴場を見学、
沢山の山に圧倒され、又ガンジス川の流れの強さにも
びっくりした、途中でマンガー買う、今までで一番美
味しかった。キルネガールに行く途中に寄ったチクルグランド
にて昼食は(ヤキバ・チョーミー・タンドリーチキン・コーラ・ドサ)等を
食べる。19 時 10 分ガイトのボクさん兄弟と別れる。宮
沢宅のマネージャー・ストハウスに 20 時 30 分に着いた 21 時より
夕食は(中華丼・味噌汁・キムチ・トマトサラダ・イシの丸干)22
時 00 分よりアジアンタ、エローラ観光に向けての荷造りをす
る。明日からの世界遺産見学が楽しみです。 担当 佐藤、園田

7/10・ニューデリー・オランガバード 晴れ

7:00 分起床 8:00 分より朝食(納豆、このり、もやし
の和え物、味噌汁)久々の日本食に感激、美味しかった
です。ゲストハウスを出発、フライトの時間迄には間がある
のでバザールに寄り思い思いの品物を買って求めた。イ
ンドの高級ホテル 5 つ星のハイアットホテルにてティータイム(ケーキ・紅茶・コ
ーヒー)大変美味しかった、紅茶店に寄り各自お土産を
買い求める。15 時 20 分インデラガンジ・インターナショナル空港に
着いた 16:55 発の国内線 9W015 便は定刻に離陸し機
は順調に飛行してオランガバード空港に、19:00 に無事着
陸した、ガイトの案内で観光バスは出発したが、市内の
一流ホテル(プライト BI 区ホテル・ザ・モテル)が見つからないで
大変であったがガイトが車を止めて数人の人に確認し
約一時間程でホテルに着く事ができた、ホテルはバス付で最
近で上ったばかりでありあまり知られていなかったと
のことでした、夕食はホテル・バ・イキングで腹ごしらえ

23:00 分お休みなさい。

担当 佐藤・園田

7/11・オランガバード・エローラ観光 晴れ

6 時 00 分起床食堂へ、今日の予定はアジアンタ観光だっ
たが、エローラ観光に変更になった宮沢氏の社員で今回
の旅案内担当ラジープさんの添乗(彼は静岡に五年程
仕事をしていました)日本語がとても上手でした。
9 時 00 分ホテルを出発 9 時 50 分エローラ着、現地の観光ガイド
頼んでラジープさんの説明を聞きながら回ったエローラは
大地にせり出した岩出を掘削して作られた寺院群で、
世界一として代表的なものであるインドの Gupta 時代
(6~8 世紀に構築された巨大な寺院は二つの岩から掘
れている。岩を上から掘り進めて、寺院本体を残す方
法でつくられた。エローラは 34 洞窟がありその中で 12 洞
窟は仏教 17 洞窟はとゾロアスター教 5 洞窟はジャイン教に属する。
洞窟の中には 3 階建のもありびっくりした、岩はバサルト
という硬質の岩で上から順番に掘り進めて行った
そうです、その中でも 16 番の洞窟は 1 番すばらしく無
数の精妙な彫刻をもつ巨大な寺院で装飾柱・巨像・桜
門・回廊はスケールの大きな物で神秘的で感動した、1 番
洞窟~12 番洞窟は仏教・13 番洞窟~29 番洞窟はヒンズー
教・30 番洞窟~34 番洞窟はジャイン教と 3 つの宗教からな
っている。エローラの中のレストランで昼食をとり、14 時 30 分
過ぎに車で少し離れたジャイン教の洞窟を見学する。16
時 45 分世界遺産エローラ観光を終了し、オランガバードのデ
パートで買い物生産に紅茶を思い思いの籠に入れた、
その後ホテルに帰り、20 時 30 分 22 時 00 分頃まで夕食、
今日一日の観光買い物と話は進み楽しい一時を過ご
した。このホテルには 3・4・5 階にはバスタブ付のスイートルーム
が一室ずつあったそれぞれ、初野夫妻・森田、安間・佐
藤、園田、が宿泊 宮澤、新井、ラジープさん達は一般的
なシャワー付きの部屋でした、皆様には誠に申し訳ない
と思う、そこで宮沢氏には私達の部屋でバスタブに浸
てもらおう事にした、彼は普段は日本の式風呂がない
生活をしているので久しぶりの浴槽でゆっくり疲れ
を癒してもらう、私達も久しぶりに浴槽に浸って
旅の疲れを癒した。 担当 森臣・安間

7/12・オランガバード・アジアンタ観光 晴れ

今日はアジアンタ観光、食堂でバ・イキングの朝食 8 時 00
分 10 時、60 分も離れた観光地アジアンタ着、到着する
と同時に物売りが大勢やって来た上手な日本語「こ
れ買う。買わない」と言って付きまとってくる「要ら
ない」と言う「ただでも要らない」等と言ってくる
ので皆で大笑いした。此処から大型バスに乗り換えた、
10 分位でアジアンタの岩窟遺跡近くまで行った、奥深山
の中で岩山を削って掘った洞窟が 30 個あり 5 個の寺
と 25 個の住居だそうです、1819 年イギリスのジョン・スミス
と言う人が虎狩りに来て偶然したそうです、ガイトの
説明を聞きながら回った時日本人 2 人組 2 組と会った、

又日本もこの遺跡保存のために援助しているとか、日本語版の説明書を買っているのには驚いた1000年以上も発見されずに埋もれていたと云う洞窟だがとても信じられない豪華な壁画や彫刻に感動しました。14時00分アジヤタ^アの中のレストランで昼食毎度のカレー・ナン・ヨーグルト・このヨーグルトがとても美味しくてお代わりをして食べた、15時00分レストランをでて、観光用の送迎バスに乗り替えた、15時45分ツリストのバスに戻る、無事にアジヤタ観光を終了してこの地を出る、オランダ^アの街を散策してホテルに戻る、20時00分~21時50分夕食はカレー(魚とマトン)ナン・タンドリー・チキン・ピル・ピナツ他、この旅ではマンゴーを沢山買い求めて食べたがとても満足して美味しかった。 担当 安間 森田

7/13・オランダ^ア・ニューデリー 曇後晴れ

長かったインドの旅、ニューデリーを起点に北・南に4,500キロも終わりに近づいて来ました。7時30分ホテルで最後の朝食を済ませた、8時20分ホテル^バ・ホテルはオランダ^アの一流ホテルで我々は3連泊チェックアウトの時には総支配人立ち合いであった。バスで空港に向かう、8時50分空港に着いた標高が700米の所なので涼しい。オランダ^ア、9時30分発9W2024便は定刻に離陸し、機内は意外に空席があった。機内から見た青空がとても綺麗で印象に残っている、ムンバイ観光を取りやつプーネ経由でデリー空港に、13時40分機は着陸した。バみにて一旦宮沢宅に向かい帰宅の準備、テレビのニュースではこの日ムンバイで大規模の暴動があり750人もの逮捕者が出たとかムンバイ観光を取りやめて正解だった一つ間違えば帰宅出来なからかも? お土産等入れトランクの荷物を詰め直す機内持ち込みの20キログラムにするのが大変であった。14時30分昼食にはラーメン・特製のカレー・ナン、とても美味しい、ラーメンを食べられると思っていたので大感激でした、それから帰りの支度も全て終了した。夕食に純日本のそうめんをご馳走になり皆様の温かい持成しにととても感謝して楽しい旅も最後となった。現地の宮沢さん、ガイドのラジブ^バさんには空港まで送って戴き有難う御座いました。又現地滞在中同行して頂いた宮沢さんには、大変お世話になりました深く感謝して厚く御礼申し上げます。デリーインデラ・ガンディー空港発A1306便は23時45分離陸した。到着6時50分乗り換えて8時35分発のCX548便は定刻に離陸し成田国際空港に13時55分無事に着陸した。

担当 初野夫妻

(紙面の都合で2回に分けて報告させて頂きました)

※今回の『北インド・ヒマラヤ登山隊』報告は奥武蔵ワグネル・代表(県岳連・参与)の新井宏司さんが投稿したものです。

ぜひ読後の感想をお寄せください。

(広報委・岩井田)

埼玉県岳連・海外登山委員会による講演会

「未踏のルート、未踏の地へ・登山と冒険の魅力」
8回目となる今回は女性登山家・谷口けいさんが登山と冒険の魅力について動画をまじえて語ります。

主 催: 埼玉県山岳連盟 海外登山委員会
講 師: 谷口けいさん
期 日: 6月6日(水)19時~21時(18時30分開場)
場 所: 大宮ソニックシティビル906号(JR大宮)
費 用: 500円(資料代) 申込み不要・先着
問合せ先: 埼玉県山岳連盟 海外登山委員会
Tel 090-7835-3455(天野方)

日本山岳会 埼玉支部安全登山委員会による 恒例の第6回講演会が開催されます

講 師: 猪熊隆之氏・気象予報士・JAC 会員
期 日: 6月12日(火)pm7:00~pm9:00
場 所: 浦和コミュニティセンター 9階(15集会室)
費 用: 無料(申込み先着順 100名)
問合せ: 日本山岳会埼玉支部・安全登山委員会
松本敏夫・☎090-5338-0118 または
下記メールに直接申込みください。

《toshio-matsumoto@jcom.home.ne.jp》

コバトンボルダリングカップ in RC川越

第25回県民総合体育大会 兼

国民体育大会埼玉県予選会

趣 旨: ボルダリング競技の普及の為に愛好者の日頃培った技術の披露と交流 及び国民体育大会・埼玉県代表候補選手の選考
主 催: 埼玉県、埼玉県教育委員会、埼玉県体育協会、埼玉県山岳連盟、
主 管: 埼玉県山岳連盟
(選手強化委員会及び競技委員会)
後 援: (社)日本山岳協会(予定)、ビックワイド川越
日 時: 2012年6月17日(日) 受付 8:00~8:30
開始 9:00~終了 17:00(予定)
会 場: ビックワイド川越(川越市脇田町 32-3 三豊ビル川越ビル 1F Tel・Fax 049-226-1426)

参加資格: ボルダリングを愛好している小学生以上の人
参加料: (1)個人競技⇒エリート(RP1級上)・スーパーミドル(RP2級まで)・ミドル(RP3級まで)・ビギナー(4級まで)・キッズ(小学生)
(2)チーム競技⇒RP3級以上の2名(個人競技後のパフォーマンスとなりますので、個人競技に参加の同好のお2人(男女でも可)で奮ってご参加下さい)

※競技方法・規則等の詳細はHPを参照ください。

《[HTTP://www.saitama-mf.com/14.](http://www.saitama-mf.com/14.)》

沢山のご声援をお願いします!

さいたま市岳連:遭対委員会 お知らせ

下記のテーマで講演が行われます。

『夏山登山の山岳気象/観天望気と気象遭難』

主 催: さいたま市山岳連盟
講 師: 城所邦夫氏・環境省自然公園指導員
元気象庁山岳部々員、日本山岳会々員
期 日: 6 月 23 日(土)pm1:30~pm4:30
場 所: 北浦和ターミナル 3F・北浦和駅東口
費 用: 無料(当日先着 80 名)
問合せ先: ☎048-772-6027 遭対 石倉 昭一

『武甲山表参道 丁目石修復報告書』

編集・秩父市山岳連盟
発行・平成 24 年 3 月
B5 版・表紙上質紙カラー、
写真 モノクロ・100 ページ。
武甲山表参道現道図:
地図付。

秩父市山岳連盟様から
寄贈戴きました。

4 年に亘る修復作業
をまとめた報告書は紙
面の都合で詳しくはご
案内出来ませんが是非、

ご一読をお勧めします。なお 5 月 2 日付 読売新聞
朝刊及び『山と溪谷』社発行 6 月号にも紹介されて
おります。合わせてお読みください。

報告書をご覧になりたい方は是非、広報委までご
一報ください。

広報委・岩井田 <miwaida@mua.biglobe.ne.jp>

【専門委員会・計画】24 年 6 月~24 年 9 月

① 事務局

6/12	: 常任理事会 1	北本
7/10	: 理事会 3	北本
8/14	: 常任理事会 2	北本
9/11	: 理事会 4	北本

② 指導委員会

6/24	: 委員総会	大宮
6/24	: 指導員研修会	同上

③ 競技委員会

6/9-10	: 国体リハール大会	岐阜県
6/17	: コバトボルダリング大会	川越
7/7	: 県岳連クライミング講習会 1	加須
7/28-29	: 67 国体関プロ大会	東久留米
9/1	: 県岳連クライミング講習会 2	
9/29-10/2	: 第 67 回国体	岐阜

④ 選手強化委員会

6/9-10	: 国体リハール大会	岐阜県
--------	------------	-----

6/17	: コバトボルダリング大会	川越
	(ボルダリング 国体予選会)	

7/28-29	: 67 国体関プロ大会	東久留米
8/11-13	: JOC ジュニアオリンピックカップ	富山
9/	: 国体団結式・壮行会	
9/29-10/2	: 第 67 回国体選手監督派遣岐阜	

遭難対策委員会

6/2	: レスキュー研究会 4	(場所未定)
7/7-7/8	: 夏季レスキュー講習研修会	(場所未定)
9/9	: レスキュー研究会 5	(場所未定)

⑤ 海外登山委員会

4/13-6/1	: エベレスト登山・大山隊 (後援)	
6/6	: 谷口けいさん講演会	大宮
7/3	: 委員例会	大宮
8/	: ナガバールバット BC・トレッキング	
9/4	: 委員例会	大宮

⑦ 自然保護委員会

6/2-3	: 県岳連・清掃登山	県内
8/10-12	: 自然観察会(子供対象)	三峰
9/10-11	: 和名倉山	秩父

⑧ ジュニア委員会

6/1	: 高体連・学総体クライミング	川越
8/6-10	: 第 55 回インターハイ	青森
8/26	: 高体連・南部新人大会	奥多摩
9/25	: 高体連・東部地区新人大会	加須
9/25-26	: 高体連・北部地区新人大会	縦走
9/30-10/1	: 高体連・関東大会	

⑨ 広報委員会

5/31	: 広報誌 42 号発行予定	
9/30	: 広報誌 43 号発行予定	

⑩ 企画委員会

※ 掲載した計画は総会資料抜粋

【編集後書】ひとりごと

本号で掲載された通称『冬期滝沢 3 ス』の登攀記録は最近にない BIG アイスクライミング。編集者自身の記憶と記録のポケットには県岳連会員の記録としては初見。(会員諸先輩、諸兄の中で冬期 3 スの記録をご存知の方いたら是非お知らせください) 広報・岩井田

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

4 月 29 日二子山開山式後に会員と西岳から魚尾道峠に縦走中、(12:05 頃) 西岳山頂から見える小尾根付近にて山火事を発見通報、消防車・消防団・防災ヘリが駆け付け、ひと騒ぎあったが大事に至らず幸いだった。縦走路に面している為に登山者のタバコ等の不始末でなければ良いが、カトのような枯草が瞬間に燃え風が無いのが幸いだった。

多数の消防隊員が、尾根道を消火剤担いで現場に向かっていた。(大変ご苦労様です)

《火の扱いは細心の注意が必要だ》 @miwaida